



# 活力溢れる 地域産業づくり

## はたらき場所を増やす 産業振興・プランをつくる

七尾の雇用・経済情勢は、大変厳しい状況です。これは、しっかりと若い世代が生活や子育てができ、親孝行ができる社会基盤づくりをしなければ、七尾市が元気にならないと考えています。市民の皆さんからは「七尾市は、もっと元気になってもらわなければ。しっかりと産業の分野に、てこ入れをしてほしい」という話をたくさんいただきました。こういった声にも応えるため、産業の分野へ一番力を注がなければならぬと思っております。

産業を強くする意味では、七尾の産業の強みや弱みを

しっかりと分析する必要があります。ここから、産業の進むべきプランを作らなければならぬと思っております。

## もっかる農林水産業づくり

「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されましたが、農林水産業も極めて厳しい状況にあります。そこで、世界農業遺産に認定されたことを弾みにして、農林水産業にも力を入れたいと思えます。儲かる農林水産業づくりを目指すため、たくさんの特産物を有効活用し、足腰の強い産業にしていきたいと思えます。

## 七尾の産業とマッチングした企業誘致を進める

大きな企業誘致はなかなか難しいと思います。七尾市にある産業とマッチングができるように、小さな企業でも、キラリと光るような企業誘致をしていきたいと思えます。地道な取り組みをしっかりと、大きな魚を狙わずに、コツコツと積み上げながら、地域の産業を強くしていきたいと思えます。



# 訪れたいような まちづくり

## 温泉・食などを活かした 滞在型・体験型観光の振興

北陸新幹線の開業も間近です。また、来年3月には七尾市内に、能越自動車道のインターチェンジが開設されます。能登有料道路の無料化や七尾港の整備も着々と進んでいます。これからの4年間で、これらの整備事業が完成する予定ですが、これによって、道路網などを活かした、取り組みの準備をしていかなければなりません。基本的には、七尾市にある資源を活用して、全国に打って出なければなりません。

そして、観光産業は、地元直接的な経済効果や、裾野が広い波及効果が期待できま

す。人口減少や少子高齢化が進む中で、七尾市が生き残っていく、心臓部のような重要なものだと考えています。

従来の観光は、温泉に入っただけというようものでしたが、最近では、七尾市の自然などを体感し、連泊するような内容にシフトしています。それらのニーズに合う事業を進めていかなければなりません。すでに、滞在型の取り組みは行われていますが、訪れた人に満足してもらえよう、今まで以上にメニューの提供をしていかなければなりません。

## サッカー・マラソンなど スポーツ合宿のメッカづくり

これまでも、学生たちの合宿誘致に努めてきています。和倉温泉には、サッカー場やヨットハーバーがあり、昨年度実績で、全国から約7万人が合宿などで訪れています。これは本当にうれしいことです。この取り組みにさらに力を入れ、いろいろな世代層に来てもらいたいと思えます。特に、若者による合宿のメッカづくりを強化していきたいと思えます。来年には、能登

島中学校跡地にナイター設備があるサッカー場ができました。完成すると、七尾湾周辺で6つのサッカー場ができ、さらなる合宿誘致に拍車がかかるのではないかと思います。その結果、和倉温泉や能登島を中心に、地元産業が元気になると期待しています。

## クルーズ船、イベント、 学会などの誘致

七尾港では、矢田新地区耐震強化（旅客船）岸壁の整備が着々と進んでいます。整備が完了すると、市街地近くに大型客船が入港できるようになります。七尾港が、宝の持ち腐れにならないよう、訪れた人たちに七尾市のおいしい食などを堪能してもらう誘致活動に、取り組まなければなりません。

## ハッピーリタイアメント（幸せな引退生活）は七尾で！

新しい取り組みも実施していきたいと思えます。それは、「ハッピーリタイアメント」幸せな引退生活は七尾で！という取り組みです。市内には、空き家がたくさ

Manifesto III



安心・安全市民の暮らしを守ります

高齢者ニーズに応える 介護・福祉施設の整備促進

七尾市で、子どもたちが元気に育つことや、高齢者の

んありますが、都会から移住していただき、生活してもらえよう誘致活動を実施していきます。

また、七尾市には、総合病院が二つあります。能登地域で、こういった地域はありません。このような特色を活かし、健康をテーマにした医療分野での誘致活動も行いたいと思っています。

これは、行政だけでできるものではありませんので、民間の力もいただきながら、進めていきたいと思っています。

方々が、住み慣れた地域で豊かに老後を暮らすということが重要だと思っています。

七尾市の高齢者は、本当に元気です。こういった姿を見ると、居場所をきつちりと確保しなければなりません。

地域での福祉サービスが整っていないかならないことは当たり前ですが、その前に、地域で元気に暮らせるよう、生きがいづくりに取り組まなければなりません。

また、高齢者の問題として、施設に入所したくても入所できない人たちがいます。この問題を解決するために、施設整備やサービスの充実にも取り組みたいと思っています。

地域で支え合う福祉ネットワークをつくる・災害に強い自主防災組織

来年3月で、能登半島地震から6年、東日本大震災から2年となります。その教訓を活かした取り組みは必要不可欠です。251の全町会で福祉ネットワークや自主防災組織が整備され、機能するようにしていきたいと思っています。また、災害に備えた防災倉

Manifesto IV



産業・交流・市民生活を支える社会基盤づくり

能越、藤橋バイパスなどの幹線道路の整備促進

これまでは、ソフト面での話をしました。これらを活かすには、道路や港、学校や福

庫整備や、ケーブルテレビ網、FM波を活用した緊急防災情報告知システムなどの整備にも取り組んでいきます。

子育て・子育てを応援する

子どもたちがいるだけで地域が元気になります。子どもたちを健やかに育てるのは地域であり、行政でもありますので、子育て支援や教育環境の充実を図っていききたいと思っています。

七尾港の整備促進

七尾港の整備では、二つの事業が進められています。ひとつは、大田埠頭を水深13メートルにし、矢田新埠頭では、耐震強化岸壁が整備されています。完成すれば、大型貨物船の入港が可能になることや、クルーズ船が誘致できるようになります。これにより、港湾の活用と能越自動車道を活用した企業誘致が進むのではないかと思います。ハード面を整備することで、人を呼び込み、産業を強化することになりますので、計画どおりに推進していきたいと思っています。

七尾港の整備では、二つの事業が進められています。ひとつは、大田埠頭を水深13メートルにし、矢田新埠頭では、耐震強化岸壁が整備されています。完成すれば、大型貨物船の入港が可能になることや、クルーズ船が誘致できるようになります。これにより、港湾の活用と能越自動車道を活用した企業誘致が進むのではないかと思います。ハード面を整備することで、人を呼び込み、産業を強化することになりますので、計画どおりに推進していきたいと思っています。

Manifesto V



未来を担う人づくり

青少年の国際交流の推進と英語教育の充実

青少年の国際交流の推進や英語教育の充実にも取り組みたいと思っています。

その中でも、韓国金泉市やアメリカモントレイ市などの姉妹都市交流は、活発に行われています。子どもたちがこれからの国際社会に対応できるように、異文化に触れる国際交流事業を、積極的に実施していきます。「百聞は一見に如かず」という言葉もありますので、早い時期から、異国を訪問するチャンスを与えたいと思っています。

また、英語教育の充実も必要です。七尾市では、小学生から英語教育の取り組みが始